

教育問題

チーム担任制の導入は 町の教育に適した指導体制



よしお まさき
吉尾 昌樹 議員

問 チーム担任制とは、学級担任を一人に固定せず複数の教員がチームとして学年や学級の運営、学習指導、生徒指導を分担、協働する仕組みで、一人の教員にかかる重圧や業務負担を軽減し、子ども

たちを多角的な視点で見守る教育手法として教員不足や長時間労働、不登校などの複雑化する課題への対応策として、文部科学省が推進する教科担任制と組み合わせられ、全国の小中学校を中心に導入校が広がっているそうです。これについて町の現状と課題を問う。

答 宮川 教育長

現在黒潮町ではチーム担任制は導入していない。本町の小中学校は比較的小規模であり、職員数も限られている。現時点での導入は難しいが期待される効果としては、多様な個性や課題を持つ子どもたちに対し複数の教員の視点によるきめ細やかな指導や支援が可能になる。

また、教員それぞれの専門性や、得意分野を活かした授業づくりが進み、授業の質や学級経営の向上、教員の人材育成や業務改善にもつながること

が期待される。一方で、役割分担や、責任の所在を明確にしなければ保護者対応や児童生徒の評価に分かりにくさや混乱が生じる可能性がある。学校の実情に応じた運用の工夫が必要。

有害鳥獣対策

有害鳥獣対策について
総合的な被害防止
対策を

問 当町の有害鳥獣被害防止対策の有害鳥獣被害や、防止対策、それにかかる補助などは、また、箱罟、侵入防止柵の設置や農作物被害額の算定についてはどのように行っているのか問う。

答 今西 海洋森林課長

令和7年度町内での有害鳥獣被害はイノシシ、シカ、ハクビシン、などに起因する農作物の被害状況は被害面積151アール、被害数量1万2

882件、被害金額379万6千円となっている。有害鳥獣の個体数管理を目的としたワイヤーメッシュ柵等の防除対策を基本的な施策として実施しこれらを組み合わせた総

合的な被害防止対策に取り組んでいる。また、鳥獣被害防止協議会を通じて町への申請を前提に補助を受けるようになって



増える耕作放棄地